

風薫る5月、と内地では過ごしやすい季節の代名詞に例えられる今月ですが、当県では入梅時期が気になるタイミングとなってきました。

ゴールデンウィークには、新型コロナ禍が嘘であったような多数の観光客が来沖され、当県の魅力を満喫して頂きたいところです。一方で医療者にとっては頭の痛い問題があります。GW終了後の5月8日から、新型コロナウイルス感染症は、コロナ感染症2019に呼称を変え、感染症法上の扱いも5類相当に変化します。一般開業医にとって最も気になることは、これまでこの感染症に対応してこられなかった医療機関がどれだけ診療にご協力いただけるのかという点です。当院は小規模ながら発熱外来を続けてまいりましたが、従業員のみならず医師の疲弊も限界に近く、この際ぜひとも新しい戦力の導入に期待したいところです。また、中等症以上の方や経過中に悪化した患者さんの治療並びに入院先調整を個々の医療機関が担うことへの大きな不安がのしかかります。感染症専門家・統計学者の多くが、GW明けの患者急増を懸念しておられます。当県でも、早めに病診連携体

制の構築や、県等の入院調整機能の継続に望みをつなぎたいところです。

オンライン資格確認制度の導入といい、今回のコロナ感染症の分類変更といい、急な方針転換に医療関係者が振り回されている感がぬぐえません。

話は変わり、表紙の写真は、東日本大震災から12年経った大槌町の様子です。着実に復興が進んでいる様子がうかがえます。皆様も被災地支援の選択肢として、ふるさと納税でのご協力はいかがでしょう。私の故郷は震災から28年が経ちました。ようやく町の様子に震災の影は消えてきており、東日本各県の復興にはさらに同等以上の期間が必要なように感じます。

毎月発行となった2号目の会報誌ですが、まだまだ報告事項も少なく恐縮しております。しかし、各原稿は読みごたえある力作ばかりです。

各玉稿をご投稿いただきました著者各位には心より御礼申し上げます。皆様、是非お目通しください。

広報委員 白井 和美

